

アルコール浸漬によって、卵胞膜の膨化、卵膜粗造、蛋白顆粒移動などの変化をみる一方グリコーゲン顆粒、脂肪酸の消失も確認された。

#### A-9 酒漬、酢漬によるタラコおよびスジコの組織変化について

三島学園女大家政 八木 恭子

1. タラコおよびスジコの組織構造をしらべ、あわせて酒漬、酢漬による組織変化像を知るために、モデル実験を併用して検討した。
2. 市販品に酒漬、酢漬処理を行なったものと、いろいろな濃度のアルコールまたは酢酸溶液に浸漬したものを供試した。これらの材料は固定後、常法に従ってパラフィンおよび氷結切片とし、一般形態、蛋白質、多糖類、脂質のための特殊染色をほどこした。
3. タラコ：卵膜は糖蛋白質からなり、浸漬処理によって構造が可成り粗造となった。核のDNAはすでに低重合化していたが、浸漬による変化はない。卵細胞の皮質はアゾカルミン顆粒、髓質はこれとアニリン青微細顆粒で充満しているが、グリコーゲン顆粒と脂肪滴は認められなかった。低濃度のアルコールおよび酢酸浸漬によって、皮質顆粒の融合、髓質顆粒の皮質への流動、巨大空胞の形成などの著変がみられた。70%アルコールと100%酢酸は組織に対して固定力があるために形態変化を示さなかった。  
スジコ：卵膜の外側に卵胞膜に類似した組織が観察された。卵細胞の皮質には蛋白顆粒の間に脂肪小滴(中性脂肪)が多数存在しており、髓質には巨大脂肪球がある。さらに、脂肪酸、類脂肪、グリコーゲンも検出された。